

日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第42期第4号
2023年3月17日
発行者:小泉基

神と人に仕える北海道特別教区

小泉 基



4月から教職3人体勢という新しい人事配置で宣教に取り組むことになる北海道特別教区では、この3月21日に行われる第43回総会において、「神と人に仕えるわたしたち」という年度主題が提案されています。この主題の提案にあたっては、ふたつのことが意識されています。

ひとつには、改めて強調するまでもないことですが、主日礼拝を大切にしたいということ。過去3年間のコロナ

2019 状況下であって、どの教会も対面礼拝を休止せざるを得ない痛みを経験しました。そこで、多くの教会がオンラインによる礼拝の配信に取り組むことになりましたし、これによって、礼拝堂に出かけられない方々に礼拝を届けることが出来るようになりました。また、初めての方にとって高いハードルとなっている教会の敷居をおし下げる役割も果たしていると思いますから、伝道的な観点からも、この新しいツールを大切に育てていきたいと思います。その一方でこの3年間の経験は、やはりともに集い、顔と顔をあわせてみ言葉をわかちあい、聖餐をともにしていく対面礼拝の大切さを再確認していく経験でもあったと思います。特に4月から教区教職3人体勢に歩み出していくなかで、礼拝の曜日を変更することになる教会もありますし、これまでの教会の働きを見なおし、優先順位を検討しなければならないことも出てくるでしょう。そのとき、その主日が何曜日であろうとも、教会の多様な働きの中心に主日礼拝があるのだ、ということ、もう一度確認しあっていきたいのです。

もうひとつの観点は、この教区が人に仕える教区としてあゆんでいく、ということです。紙幅が尽きてしまいましたから、これについては稿を改めたいと思いますが、そのために教区では、秋にディアコニアを学ぶ教区の集いを計画したいと願っています。これまでの教区の経験を大切にしながら、この機会に教区の新しい歩みを準備していきたいとも話しあわれているのです。教区のみなさんが、新しい体勢での宣教をともに担って下さいますことに感謝いたします。各個教会を越えて出会い、支えあう、めぐみ豊かな教区としてともにあゆんでまいりましょう。

各教会の近況報告

【函館教会】 小泉 基

■12/25。函館教会では3年ぶりとなる愛餐をとまなうクリスマス祝会をとまにすることができました。もちろん黙食ですが、黙することに困難がある方々のためにゴスペルクワイア MSC のライブの様を視聴しながら、近所のお店の美味しいベーグルを食しました。■1/29。総会が行われ、代議員が須藤清さんから岡村隆行さんへと交代しました。須藤さんは一時全国の教区選出信徒常議員も担って下さり、今後は庶務担当役員としてご奉仕くださいます。■2/19。3年間にわたり聖書を学び、可能なときには夕礼拝に出席なさっておられた新保江里華さんの洗礼式が行われました。仕事を辞めて看護学校に社会人入学なさるといふ人生の区切りにおける洗礼式でした。■3/5。高校を卒業して上京なさる遺愛生の卒業感謝礼拝を行いました。また礼拝後、野の花の会の総会を行いました。時代も変わり、担う人も変わっていく中、女性会として歩んできた野の花の会は、男性の会であったペトロの会を吸収し、性別を問わずに聖書を学び、また教会のための奉仕を担う、新生野の花の会として生まれかわることになりました。



【恵み野教会】 中島 和喜

恵み野教会では、イブ礼拝は例年と同じようにたくさんのロウソクと共に喜びの時を迎えました。年々ちょっとずつ増えていくロウソクの数と共に、光の暖かさ・明るさを直に感じられる礼拝になってきているのだと思います。そして次の日の降誕祭では、礼拝後に久々の祝会を開くことができました！クイズにハーモニカにハーブにと、たくさんの音楽と笑い声に包まれた祝会となりました。牧師はオンラインでの説教奉仕のため牧師室にこもることとなり祝会には参加できませんでしたが、ドア越しに大変賑やかな笑い声が聞こえてきました。笑顔と共に、喜びの時を過ごすことができました。

総会では役員の人員に変化が起りましたが、新しい体制に向けての備えを皆で共に分かち合いました。4月から礼拝時間が土曜日の10時からとなり、さらに恵み野教会では新式文での礼拝を開始します。今は毎週礼拝後に新式文の練習を重ねているところです。4月からは心機一転、新しい時を過ごしていく中で、変わらない神様の愛に身を寄せていきたいと思ひます。



【札幌教会】 日笠山 吉之

札幌教会のアドベントは、長らく札幌北礼拝堂で代議員としてご奉仕された神戸敏男さんの召天から始まりました。葬儀はご家族の希望により家族葬として営まれましたが、敏男さんと交わりのあった教会員も駆けつけてくださいました。アドベントキャンドルの灯が一つまた一つ増え、いよいよクリスマス。私も札幌教会で迎える最後のクリスマスだと張り切っていたのですが、なんとその機を狙い撃ちしたかのようコロナに罹ってしまいました。幸いな



ことに、協力牧師の中島和喜先生と宣教研修中の三浦慎里子神学生、また役員の方々の助けによってクリスマスの礼拝はすべてつつがなく行われました。感謝！

札幌教会は北礼拝堂が毎週土曜日の礼拝、札幌礼拝堂と新札幌礼拝堂が毎週日曜日の礼拝のため、大晦日の12月31日（土）と元旦の1月1日（日）がいずれも同じ主日礼拝となりました。そのため礼拝ごとに讃美歌を変えたり、説教も2本立てとなり、牧師は新年早々おおわらわでした。一息つく間もなく、今度は教会総会に向けた準備。コロナ禍のため一堂に会する総会がここ数年出来ませんでした。今年3年ぶりに札幌礼拝堂に集まり対面で実施できました。総会の翌日は、札幌礼拝堂の仲見忠孝さんの葬儀がご家族の希望によりスオミホールで執り行われました。天に召される方は続き、仲見さんの葬儀の翌日には、長らく闘病中だった札幌礼拝堂の奥貫せつさんが召されました。札幌教会のひまわりのような存在だったせつさんの召天の知らせは教会員に衝撃を与え、葬儀会場となったやわらぎ清田にはホールに入りきれないほどの参列者が来られました。葬儀はもちろんキリスト教式で執り行われましたが、司式の務めを担った牧師にとってもまた参列した教会員にとっても本当に辛い葬儀となりました。

悲しい知らせばかりでなく、嬉しいニュースもありました。帯広教会におられた渡辺郁子さんご一家がクリスマスに揃って転入。郁子さんは新札幌礼拝堂の新しいメンバーとして早速礼拝に集われています。また1月には松山敏さんも転入。札幌教会へお帰りなさい！と皆さんから歓迎されています。

昨夏から札幌教会でインターンに取り組んでいた三浦慎里子神学生の研修は、2月半ばに無事終了しました。教区の皆さんのお支えとお祈りに感謝いたします。一方、4月から九州学院にチャプレンとして着任する日笠山は引き継ぎのため2月下旬に熊本へ出張。3月に入ると、札幌教会の後任となられる小泉基牧師と岡田薫牧師（オンライン）を交えた役員会が終始和やかなムードの中で行われました。牧師交代の時期ですが、このイースターには転入を、またクリスマスには受洗を希望されている方々が既に準備を始めておられます。きっと札幌教会にもまた新しい風が吹くことでしょう。



新札幌礼拝堂



北礼拝堂

【帯広教会】

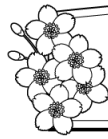
高井 康

クリスマスは24日浦幌集会、帯広ではキャンドルサービスと映画鑑賞会を行いました。コロナの状況下で考えた企画でしたが、教会員の友人やご家族の方も参加して下さい感謝でした。25日の祝会は以前のような会はできませんでしたが、黙食で軽食をとった後ビンゴで盛り上がり、そのあとの景品紹介も含めて楽しい一時となりました。今後も状況に合わせて楽しい企画が出来ればと考えています。

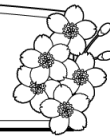
新年最初の礼拝では、帰省で直接空港から出席して下さいの方もおりその姿勢に励まされるとともに、礼拝から一年を始められる恵みにあらためて感謝しました。

2月5日の総会は、出席者は少ないものの浦幌・釧路の方々と共に時間に制限を設けず、今後についての話し合いをしました。国内外を問わず喫緊の課題が溢れ足元も厳しい状況の中ですが主題を「主が共にいてくださる」とし、主に聞きながら皆で知恵と力を結集し歩みを進めていくことを確認しました。また、小さな働きも大きな支援につながっていることを覚えて、教会の枠を越えた奉仕も継続したいとの思いも共有しました。





感謝！日笠山吉之牧師



日笠山先生の思い出 山下由美

神様のことも大好きですが、音楽も同じくらい大好きな日笠山先生。毎週の聖書の学びは、今年に入ってから、先生の大好きなバッハの作品で、讚美歌がもとになっているカンタータを聴きながら、学びをしています。いつもは時間に正確な先生ですが、歌詞や音楽の説明に熱が入り、沢山お話しになりますので、時には終わりの時間が延びることも！いつもとは違う角度から、神様のことを語って下さる楽しい学びの時です。でも4回で終わるのは残念！



そしてルーテル会館の牧師室の机の前には、めばえ幼稚園の子供たちが先生の為に書いた絵やお手紙、小学生の詫人君が書いた習字の作品が貼ってある中に、日笠山先生の「わたしのゆめ」という絵があります(描いたのは聡美さん)。先生はクラシック音楽が流れる喫茶店のご主人で、とても楽しそうにコーヒーを淹れている絵です。このお店ができれば、教会のみんなと遊びに行きますので、おいしいコーヒーと音楽のお話で、楽しませてくださいね。

福音と音楽を携えて、九州でのご活躍を祈っています。

日笠山先生へ

雨の日も雪の日も毎朝子ども達を温かく迎えてくださっていた姿忘れません。先生の弾いてくださったチェンバロの音色、いつも素敵でした。ありがとうございました。 竹原真理子

めばえ幼稚園を愛し、愛された牧師先生。九州に行っても変わらずにいてくださいね。札幌からいつも応援しています。ありがとうございました！ 野田優希

いつも優しくどしとかまえていらっしゃる姿が印象的でした。先生の教えてくださる求道者会はいつも興味深く、とても面白くて好きな時間でした。九州学院の学生もきっと良い学びとなると思います。札幌から応援、おいのりしております。頑張ってください!! 早坂汐音

12年間、札幌教会の牧師として、まためばえ幼稚園のチャプレンとしてお働きいただきありがとうございました。

これからは九州学院のチャプレンとして頑張ってください。みんなで応援しています。



めばえ幼稚園

4人家族にまちがえられたフィンランド研修は良き思い出ですね!!九州に行かれましても、お身体を大切に御活躍ください。ありがとうございました。 相原妙子



✽日笠山牧師先生✽

これまで、めばえ幼稚園に沢山の愛をくださりありがとうございました。私はたった1年でしたが、出会えて良かったです!!変わらずお元気で。

前田珠里



感謝！日笠山吉之牧師 岡田薫

日笠山牧師とは学部時代からのお付き合いなので、人生の半分以上(31年!)もお世話になっています。聖歌隊の先輩、牧師の先輩、家族ぐるみでの親しい交流・・・思い出は沢山あります。一番の思い出を選ぼうにもいろいろありすぎて頭を抱えてしまいました。でも、やはり一つを選ぶとするならば、重富克彦牧師の引退に伴う人事において古巣である北海特別教区、札幌教会の主任牧師としての招聘を受けてくださったことです。そして、今日に至るまで共に働きながら沢山の喜びも悲しみも困難もわかちあってくださったこと心から感謝申し上げます。とりわけ、「君たちに僕の最後を任せる」という重たい一言を聞かされた夏の日から2013年3月6日の召天の日を迎えるまで、重富牧師の御用聞きとして私が自由に動くことができたのも、教会の働きを日笠山牧師が一身に引き受けてくださったからです。葬儀においても司式や説教の他にもオルガンを演奏していただき、最後まで重富牧師の意思を尊重した形でお送りできたことは深い慰めになっています。九州学院でのお働きに祝福がありますように！帰省の折にはまた美味しいお酒をご一緒しましょう。ありがとうございました。



日笠山牧師との思い出 中島和喜

新任牧師として恵み野教会と札幌教会に副牧師として派遣が決まった後にある先輩牧師にこう言われました。「上司がいるなんて、恵まれているじゃないか。」と。神学的に牧師は皆同じ立場なわけですが、初めての牧会に不安を覚える中で、先輩牧師が傍に居て下さることとても安心したことを今でも昨日のこのように思い出します。日笠山牧師は時に同僚として頼ってくださることもあり、一緒になって神様の業に参加しているのだということも教えていただきました。一緒に悩み、一緒に笑い、一緒に宣教の業に励む。親子ほど年は離れていますが、同じ牧師仲間として共に居られたことは、兼任が増え牧師の数も減っていく中で大変恵まれた状況に置かれていたのだと今でこそ強く思います。また私だけでなく妻も含めて、新天地で右も左も分からない中島家を温かく迎え入れて下さったことは、感謝してもしきれません。たくさん、たくさん助けられました。中島家はもはや日笠山牧師のファンでしたのでとても寂しいです。

これから日笠山牧師は、チャプレンというこれまでとは違う働きに戸惑いもあるかもしれませんが、これからも誰かの助けとして神様の業に励まれますように、祈っています。

感謝の言葉

札幌教会牧師 日笠山吉之

ルーテル神学校を27年前に卒業し、牧師として最初に遣わされた恵み野教会から後ろ髪を引かれるようにして離道。その後、下関教会、宮崎教会を経て、再び12年前に今度は札幌教会の牧師として招聘を受けました。九州から北海道への引越しと聞いて不安そうな子どもたちを尻目に、既に北海道の良さを知っていた私たち夫婦は躍り上がって喜んだものです。ところが札幌教会へ赴任する直前の2011年3月11日、東日本大震災が起きました。震災で大きな被害を受けたかの地の



上空を飛行機に乗って通過した時に覚えた心の痛みを抱えたまま、再び北海道の大地に降り立ちました。あの日から12年…宮崎を離れる時は涙を流した子どもたちもいざ北海道に来たらあつという間に友達もたくさんでき、スキーも冬の寒さもお手のもの…おかげさまですっかり道産子になりました。

私は札幌教会に着任して翌年には教区長を仰せつかり、札幌教会のことだけではなく教区全体に目を配り、教区に連なるそれぞれの教会のために祈り仕えることが求められました。教区長の任期を終えた後も書記や伝道部長等の指名を受けましたので、通算10年間は教区行政に携わったこととなります。その間、函館教会や帯広教会にも何度か訪ねる機会が与えられ、教区の行事で皆さんとお目にかかることもありました。そうするうちに次第にお顔とお名前も一致するようになり、まるで教区全体が一つの教会であるような意識へと変えられていきました。確かにそれぞれの教会間の距離は日帰りでも簡単に往復できるような近さではありません。にもかかわらず、4つの教会の心的な距離はどんどん近くなってきたような気がするのは私だけでしょうか。ここ数年はコロナ禍でしたが、オンラインを用いた教区の行事や学びを持つことができた恵みも大きかったと思います。

私が転任することによって、今春から教区の牧師数は4人から3人へと減じます。牧師も信徒もそれぞれに不安を抱えていることでしょう。しかし、神が私たちのために立ててくださるのは災いの計画ではなく、平和の計画であることを信じて(エレミヤ書29章11節)、希望をもって歩まれますよう祈っています。私の新しい任地は教会ではなく学校となります。自分にミッションスクールのチャプレン職が務まるのかどうか私自身も不安ですが、神はきっと平和の計画を立ててくださっていると信じて熊本へ赴きます。

「出会いに感謝」

札幌教会宣教研修生 三浦慎里子

北海道の兄弟姉妹の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は、2月19日をもって札幌教会での宣教研修を終え、東京に戻りました。今、この文章を三鷹の神学校の寮で書いています。つい先日まで数種類のカイロを駆使し、ダウンコートを着込み、白い息を吐きながら雪道を歩いていたというのに、今は上着も要らないほどの春の陽気の中、咲き誇る梅や桃の花をぼんやり眺める日々を送っています。春は大好きな季節ですが、なんだか現実ではないような不思議な感じがします。多分私は、厳しい冬を耐えた草木が一気に美しい花々を咲かせるという北海道の春を、皆さんと共に迎えたかったのでしょう。どうやら、この半年の間に北海道が第二の故郷になったので、ホームシックになってしまっているようです。



昨年、宣教研修開始のご挨拶を教区報に載せていただいた時、私は北海道の信徒の皆さんと一緒に笑ったり、泣いたり、祈り合ったりできる関係を築きたいと書きました。振り返れば、たくさんの出会いに恵まれました。皆さんと時を過ごし、語り合った思い出が次々によみがえってきます。苦しみや痛みの中で力を発揮する信仰、希望を持つこと、宣教の喜び、信徒の皆さんを信頼し委ねること、自分の思いがけない弱さなど、私が研修で得た大切な学びは全て、皆さんとの出会いを通して与えられました。そして、これからも人との出会いを通して私は心を震わせ、笑ったり泣いたりしながら、大切なことを学んでいくのだと思います。その中で神様が私をどのように用いてくださるのかを見出すのが、とても楽しみです。

いつかまた、北海道に戻ってくるのができたら嬉しいです。研修をさせていただいた道内全ての教会の皆様、本当にありがとうございました。またお会いできる日まで、どうかお元気で！

教勢動向

函館教会

転入：上貞孝子 上貞幸丕(2/12)
受洗：新保江里華(2/19)

札幌教会

召天：神戸敏男(12/3)、仲見忠孝(2/5)、奥貫せつ(2/6)
転入：渡邊郁子(12/18)、渡邊明(2/19)、渡邊陽(2/19)
松山敏(1/5)

帯広教会

転出：渡邊郁子、明、陽(2022年12月)
川村健二(2023年2月)